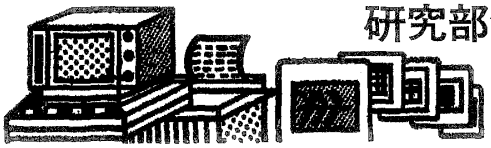

研究部会報告

● システムの最適化とOR ●

・第12回

日　時：9月17日(金)　14：30～17：00

出席者：10名

場　所：福井工業大学　2号館402会議場

テーマと講師：

(1)「非割り込み型時間制限式半二重通信方式の伝送遅延特性の評価―処理時間分布の違いが与える影響―」　藤井直孝，小林　香，片山　勁（富山県立大学工学部）

本報告では，Video On Demandのようなユーザとサーバ間でトラヒック量が大きく異なる非対称な通信サービスに対する伝送の優先処理方式である，非対称型半二重通信方式について，1) 処理時間分布が指数分布に従う場合，2) 処理時間分布が一定分布に従う場合の，2つの場合について伝送遅延特性の解析を行い，任意に設定可能な制限時間パラメータを用いることによって，多様な優先状態を実現できることを確認した。

(2)「製品差別化を伴うR＆D競争」　前田　隆（金沢大学経済学部）

本報告では，寡占的市場における新製品開発競争を，1) 製品開発投資競争，2) 製品の品質選択，3) 選択された財の価格競争，からなる3段階の非協力ゲームとして定式化し，その均衡戦略の特徴を考察した．特に，消費者の財に対する選好は同一であっても消費者の所得分布が異なる場合，新製品開発競争の結果，単一の製品によって市場が支配されるだけではなく，品質の異なる複数の財が市場に供給されることが示された．

● マーケティング・エンジニアリング ●

・第1回

日　時：6月21日(月)　19：00～21：00

場　所：立教大学　7号館7301教室

テーマ：「金融意識と生活価値観による金融行動分析」

講　師：廣岡康雄（㈱NTTデータ　システム科学研究所）

1994年に実施した「日常生活とアンケート」調査に基づいて，金融行動の基本構造解明を試みることで，商品選択行動に影響を与える外的/内的要因について抽出した．その考察を踏まえ，金融のリテール市場へデータベース・マーケティングを適用するために，銀行内顧客データとアンケート・データを組み合わせるモデルの枠組みを提唱した．

・第2回

日　時：7月5日(月)　19：00～21：00

場　所：立教大学　7号館7301教室

テーマ：「変わる生活者の金融意識と行動～電通金融ビッグバン生活者調査結果より～」

講　師：小林健一（㈱電通　R＆D局）

97，98年に行った調査結果を比較して，金融意識の変化について考察した．ここから，一般生活者の金融ビッグバンに対する意識が着実に上昇していることが読み取れた．さらに，金融に対する関心度の強い高額所得者層に分析のターゲットを絞り，この層が持つ金融意識と関心のある金融商品について具体的な分析結果を報告した．

・第3回

日　時：10月18日(月)　19：00～21：00

場　所：立教大学　7号館7301教室

テーマ：「金融業界におけるデータマイニングの応用～事例：保険解約の防止分析」

講　師：小野　潔（㈱ニッセイ　基礎研究所金融研究部門）

金融業界のデータマイニングの国内外における現状動向について紹介し，実務で行われる分析のプロセスと手法について説明した．さらに具体的な手法としてディシジョンツリー分析や個人融資審査モデルなどを提案し，実際にSAS/Enterprise Minerを用いてモデル構築から分析結果のデモを披露した．

・第4回

日　時：11月15日(月)　19：00～21：00

場　所：立教大学　7号館7301教室

発表内容：データコンペ第一回中間報告

発表者：マーケティング・エクセレンス，リブラーズ，white rabbit, if

今回はデータコンペの第一回目の中間報告であり，4グループからの報告があった．マーケティング・エクセレンスは利用者からみた金融機関の利便性をとりあげ，客層にあわせたアプローチに関して議論した．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

リブラーズは，金融機関の商品提供能力に着目し，顧客が金融機関を決定する目的と要因について分析を行った．white rabbit は，金融商品を類型化し，ライフスタイルと金融意識より，新商品開発に向けた分析を行っているとの報告があった．if は大学生に特化した分析のために，世代による意識の推移を分析した．さらに今後独自のアンケートを織り交ぜて分析を進めるとの報告があった．

COM・SCM・スケジューリング

・第17回

日　時：11月12日(金)　13：30～20：00

出席者：25名

場　所：青山学院大学　青山キャンパス総研ビル10階18会議室

テーマ：開催100回記念研究会「ラグランジュ緩和法とスケジューリング」

部会開催100回を記念し，鈴木久敏氏（筑波大学）による「ラグランジュ緩和法について」と，米田清氏(福岡大学）による「ラグランジュ緩和法によるスケジューリング」と題するチュートリアルを行った．また，「新しいスケジューリング・ロジックとしてのラグランジュ緩和法への期待」というテーマで，上記の2氏に加え，村松健児氏（東海大学），成松克己氏(東芝)，黒田　充氏（青山学院大学・司会）によるパネルディスカッションを行った．ここでは，ラグランジュ緩和と分解法に対する意義や役割，将来性などについて，意見交換がなされた．

グローバル政策

・第7回

日　時：11月20日(土)　14：00～17：00

出席者：12名

場　所：三菱総合研究所4階CR-4会議室

テーマと講師：

「意志決定支援システム」

市川雅也（三菱重工名航電子技術部）

航空機の運航についてパイロットを補佐する意志決定支援システムが研究されている．ここでは，行動の決定木を作成し，代替案のコストと報酬を評価するために「行動モデル」の知識ベースが必要となる．知識には，(1)直感，(2)経験則，(3)原理原則に基づく知識があり，経験則に基づく知識の表現方法にはペトリネットが用いられることが紹介された．

また，意志決定に相手がおり，相手の行動を予測し確率的に表現するためにはDempster-Shafer理論が利用できることも紹介された．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．